

NFAアクションプラン2022→2026	全体 頁中の 頁
1. 現状の概要と今後の方向性	技術委員会
<p>[2022年度における現状]</p> <p>国体について、昨年、一昨年はコロナ禍により大会が中止となったが昨年度については少年男子では北信越予選を1位で通過した。今年度は本国体(栃木)において優勝候補の静岡選抜に勝つなど、一定の成果を挙げることができた。また今年度より少年女子の部がスタートし初の国体に新潟県として出場権を獲得することが出来た。ただし拮抗した試合展開の中で勝ち切ることが出来ず目標とするベスト4以上にはいずれも及ばなかった。各種別のリーグ状況を観ると特に3種年代での課題がみられた。U15北信越リーグでは上位に位置するチームがおらず、クラブユース選手権、高円宮杯U15等の全国大会に進出するチームがここ1・2年出ていない。技術委員会としてはこれらの状況に対して、トレセン活動や指導者養成、TSG活動等を通じて選手個々のレベルアップを通じてバックアップをしていきたいと考える。これについて以下おおまかにまとめる。</p> <p>○プレッシャー下での正確な技術・・・ゲームで激しいプレッシャーがかかった状態ではまだまだ精度の高い技術が発揮出来ない。狭いスペースでの正確なファーストタッチやパスの質(強さ、球種、角度やタイミング)など相手にボールを奪う隙を与えない技術力が求められる。</p> <p>○速く正確な判断・・・ゲーム状況の中で最適な判断をし素早く実行したりゲーム全体俯瞰してを読む力が足りない。そのためには周囲の状況を観ること、特に何を観るか、いつ観るかなどの理解を深めなければならない。</p> <p>○オフザボールの質・・・オフザボールの時にまだまだボールウォッチャーになり関わり続ける意識が低い。ボールを持っているプレーヤーに対してどのように関わるのか。また、ボールを持っているプレーヤーと自分だけでなく、ボールを持っていないプレーヤー同士の関係を意識して動くことなどの意識を高めなければならない。</p> <p>○ボールを奪う力・・・常に相手ボール保持者に対してハイプレッシャーをかけ続け、1対1でボールを奪いきる守備力とグループとしてコレクティブに連動しボールを奪うことがゲームの中で継続して出来るようにしなければならない。</p> <p>以上のような選手個々の課題を目先の勝敗に囚われることなく活動の中で浸透させていく。</p>	

NFAアクションプラン2022→2026	全体 頁中の 頁
2. 中期目標(2030年)	技術委員会
<p>[トレセン活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 種別や地区を越えたトレセンの連携がなされ、県全体として一貫性を持った選手育成がなされている。</li> <li>2 各年代の代表、エリートプログラム(U14以下)、ナショナルトレセンに、毎年合計50人以上をコンスタントに輩出する。</li> <li>3 JFA認定トレセンの完全実施</li> </ol> <p>[指導者養成]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 JFA公認指導者ライセンス取得者をC級800人以上、D級900人以上を目指す。</li> <li>2 県主催のリフレッシュ研修会を計画的に実施する。</li> <li>3 NFAフットボールカンファレンスを2年に1度開催し、指導者のレベルアップをはかる。</li> <li>4 トレセンコーチ会議を通じて県の現状、課題と今後の指針について指導者で共有し、トレセン指導者を通じての情報発信をする。</li> </ol> <p>[国体強化]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 成年男子では常に本国体に出場し、ベスト8以上を目指す。</li> <li>2 少年男子では常に本国体に出場し、ベスト8以上を目指す。</li> <li>3 成年女子では常に本国体に出場し、ベスト4以上を目指す。</li> <li>4 少年女子では常に本国体に出場し、ベスト8以上を目指す。</li> </ol>	

NFAアクションプラン2022→2026	全体 頁中の 頁
3. 長期目標(2050年)	技術委員会
<p>[トレセン活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 種別や地区を越えたトレセンの連携がなされ、県全体として一貫性を持った選手育成がなされている。</li> <li>2 各年代の代表、代表候補選手をコンスタントに輩出するとともにフル代表を輩出し続ける。</li> </ol> <p>[指導者養成]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 JFA公認指導者ライセンス取得者をC級1200人以上、D級1500人以上を目指す。全登録チームに公認C級以上のライセンスを持つ指導者がいる。</li> <li>2 県主催のリフレッシュ研修会を計画的に実施する。</li> <li>3 NFAフットボールカンファレンスを2年に1度開催し、指導者のレベルアップをはかる。</li> <li>4 トレセンコーチ会議を通じて県の現状、課題と今後の指針について指導者で共有し、トレセン指導者を通じての情報発信をする。</li> </ol> <p>[国体強化]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 成年男子では常に本国体に出場し、優勝を目指す。</li> <li>2 少年男子では常に本国体に出場し、優勝を目指す。</li> <li>3 成年女子では常に本国体に出場し、優勝を目指す。</li> <li>4 少年女子では常に本国体に出場し、優勝を目指す。</li> </ol>	

NIFAアクションプラン2022→2026						全体 頁中の 頁
4. 現状分析						技術委員会
No. と 事項	2026年具体的目標	2022年における現状	達成度	目標達成へ向けての課題	改善の方策	
1 トレセン	1 一貫指導体制による質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区トレセンの組織はできており、今後に向けては活動の質に課題がある</li> <li>年度初めの合同トレセンスタッフ研修会で指導内容を共有している</li> <li>リーグ戦の導入で県レベルでのトレセン実施が日段的に難しくなっている</li> <li>FAコーチによる各地区の巡回及び指導を行っている</li> </ul>	60%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライセンス保有指導者の確保（地区によるばらつき解消）</li> <li>指導内容の理解度向上、指導レベルの均一化</li> <li>日程の確保</li> <li>地区ダイレクターとの連携と開催日などの情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区ダイレクターのリーダーシップにより計画的に地区内の有資格指導者を増やしていく</li> <li>トレセンコーチ研修会の開催と新規でトレセンコーチ会議を開催し成果と課題、ベクトルの共有をはかる</li> <li>可能な限りリーグ日程との調整と地区レベルでの活動を充実し補う</li> <li>さらに有効活用すべく、FAコーチ、地区D双方でのコミュニケーションを円滑にしていく</li> </ul>	
	2 カテゴリー代表、エリート、ナショナルトレセンに毎年30名以上選出される	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度はU12でナショトレ10名、エリート4名、U14・13でナショトレ9名、エリート3名、女子で代表候補2名、ナショトレ4名</li> </ul>	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここ数年減少傾向である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区トレセンからの質向上に努めよい刺激を与えられるようにし、自チームでも継続して選手がトレーニングできるようにしていく。</li> </ul>	
	3 JFA認定トレセン完全実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>全37ブロック中34ブロックで認定完了済みだが、更新手続きに滞りが見られる</li> </ul>	90%	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区ごとのライセンス保有スタッフの確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種別が変わった際の引き継ぎ、選手のリレーを確実に行い継続した育成ができるようにする</li> <li>地区ダイレクターを中心に計画的に地区内指導者へのライセンス取得を進める。</li> </ul>	
2 指導者養成	1 公認指導者資格数をC級ライセンス650人以上、D級ライセンス800人以上にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>C級は2022年現在で569名、D級は2022年現在で704名。養成講習会はC級で年間3コース、D級で年間5コース開催</li> </ul>	50%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日程など開設方法の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者が受けやすい日程、スケジュールを現在も工夫を行っているが、専任FAコーチ制度などを最大限活用し継続して条件整備に努める</li> <li>研修会の開催回数は増加している。今後も継続して行っていく</li> <li>各カテゴリーの大会やトレセンを分析した内容を広く伝達し共有する機会を増やすため、種別年代や地区ごとに細かく参加対象を分け複数回開催できるようにする。</li> </ul>	
	2 リフレッシュ研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポイント対象の研修会が少ない（15P2回、5P1回）</li> </ul>	30%	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーグ、トレセン活動との日程調整</li> </ul>		
	3 種別や地区ごとの研修会実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>2種および3種で指導者講習会を開催（2種はポイント対象外の研修）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>なるべく多くの参加者が参加可能な日程・会場の設定</li> </ul>		
3 国体強化	1 成年男子で常に本国体出場、ベスト8以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度本国体出場、1回戦敗退</li> </ul>	50%	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門学校、大学の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャパンサッカーカレッジを主体として県内大学の連携をさらに強化する</li> <li>アルビレックス新潟との連携を技術委員会だけでなく協会としてさらに密にしていく。併せて各高校へ選手派遣への理解協力を粘り強くおこなう</li> <li>アルビレックス新潟レディースを主体としてジャパンサッカーカレッジ、大学等県内女子チームの連携をさらに強化する</li> <li>現状を継続しつつ、主体となるアルビレックス新潟レディースとの連携を中心に県内高校との連携も強化する</li> <li>男子を指導している指導者も含め戦略的に女子の現場に配置するとともに上位ライセンス取得を進める</li> </ul>	
	2 少年男子で常に本国体出場、ベスト8以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度本国体出場、ベスト8</li> </ul>	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属チームの日程に応じた活動期間の確保が難しくなっている</li> </ul>		
	3 成年女子で常に本国体出場、ベスト4以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度該当せず、2020～2021年度コロナ禍により大会中止</li> </ul>	0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルビレディース、県内大学との連携</li> </ul>		
	4 少年女子で常に本国体出場、ベスト8以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度本国体出場、1回戦敗退</li> </ul>	50%	<ul style="list-style-type: none"> <li>U12～16までの女子トレセン活動が系統的に整備されて間もないが形になりつつある</li> <li>指導者の確保と質の向上</li> </ul>		
事項番号と見出し	事項の中での具体的な目標 明確に、可能であれば数値で	2026年目標に向けての2022年での現状 達成度の%表記を右欄へ記入→	%表記	目標達成のために解決すべき課題	課題を解決、改善のための方策の概要	

NIFAアクションプラン2022→2026					全体 頁中の 頁
5. 具体的アクション					技術委員会 連盟 地区協会
No.	誰が	いつ・いつまで	どこで	何を	どのように
1 [トレセン活動]					
①一貫指導体制による質の向上	技術委員長 ユースダイレクター 地区ダイレクター FAコーチ	2026年	・各種別、各地区	・ライセンス保有指導者の確保 ・指導内容の理解度向上、指導レベルの均一化 ・活動日程の確保	・地区ダイレクターのリーダーシップにより計画的に地区内の有資格指導者を増やしていく ・トレセンコーチ研修会、トレセンコーチ会議を開催。FAコーチによる指導巡回 ・種別委員長、YDでリーグ日程との調整。地区レベルでの活動を充実
②ナショナルトレに毎年30人以上	技術委員長 ユースダイレクター 種別技術委員長 FAコーチ	毎年	・各種別県トレセン ・技術委員会	・選手の発掘、育成 ・種別同士の交流、情報交換	・各地区から情報を吸い上げ、将来性のある選手を県トレセンに送る ・FAコーチ、YD等による計画的な地区トレ巡回 ・①と連動しトレセンの質を向上させ選手により刺激を与え続けられる環境づくり
③認定トレセン完全実施	技術委員長 地区ダイレクター 種別技術委員長	2024年	・各地区 ・県トレセン	・認定に向けた申請作業 ・認定に必要なライセンス保有コーチ確保	・地区ダイレクターを中心に申請作業をすすめる ・各種ライセンス講習会への推薦を計画的にすすめる
2 [指導者養成]					
①公認ライセンス数	FAインストラクター FAコーチ	2026年	・公認コーチ養成講習会	・開催するコース数をC級5コース、D級5コース	・カレンダーで年度当初に計画し、受講しやすい日程の工夫をする。またFAコーチを効果的に活用する。
②リフレッシュ研修会の開催	FAインストラクター 各種別技術委員長 FAコーチ	毎年	・県内各所	・リフレッシュ研修会として10～15ポイントの研修を各地区1回程度、オンライン形式を含めた5P研修を2回程度	・各種別の年間カレンダーに組み込み早めにインフォメーションするとともに受講しやすい形式を工夫。FAコーチを活用する。オンライン形式を取り入れる
③種別や地区ごとの研修会の開催	各種別技術委員長 ユースダイレクター	毎年	・各種別総会等	・指導者のレベル向上に資する研修を企画し行う	・各種別ごとの課題に基づいたテーマを設定し研修を行う
3 [国体強化]					
①成年男子でベスト8以上	国体GM	隔年	・技術委員会、1種委員会	・ジャパンサッカーカレッジ、大学等の強化に関する連携について	・社会人、大学の担当者と技術委員会で連携強化策についての共通理解を図り、活動に反映させる。
②少年男子でベスト8以上	国体GM ユースダイレクター	毎年	・技術委員会、2種委員会	・カレンダーの作成 ・所属チームとの折衝	・おもに2種関連大会とのバランスをはかる ・選手の確実な派遣について、技術委員会として関わる
③成年女子でベスト4以上	国体GM 女子委員会 ユースダイレクター	隔年	・技術委員会、女子委員会	・アルビレックス、県内大学の連携について	・技術と女子でイニシアティブをとりアルビレックス、大学の連携強化
④少年女子でベスト8以上	国体GM 女子委員会 ユースダイレクター	毎年	・技術委員会、女子委員会	・U12～15トレセン活動 ・所属チームとの折衝	・現状を維持しつつもU16での国体を意識した強化策の検討、実施 ・選手の確実な派遣について、技術委員会と女子委員会で協働して関わる